

水と緑あふれる地球のために

---

取 扱 説 明 書

---

株式会社 エスアールエスディービー社

# ＜S R S型排水土壌浸潤装置取り扱い説明書＞

## 1. 製品説明

- ① S R S型処理装置は廃ポリエチレンをリサイクルしたエコマーク認定商品です。
- ② S R S型処理装置は浄化槽排水を宅地内で処理します。
- ③ S R S型処理装置の設置位置には流入桝、通気管、検知管が地上に出ています。
- ④ S R S型処理装置は微生物の働きを利用し、土壌に浸潤発散する装置ですので地下水を汚すことは有りません。
- ⑤ 流入桝は、S R S型処理装置の前部に設置してあります。浄化槽からの放流水をいったん溜めゴミ等を装置内に入れないようにするためと装置を点検するためにあります。
- ⑥ 通気管は、S R S型処理装置の中央部に設置してあります。微生物の働きを活性化するための空気の取り入れ口です。
- ⑦ 検知管は、S R S型処理装置の末端部に設置してあり管内に浮きと検知棒が入っていて排水の流入、浸潤により検知棒が上下し装置内部の水位がわかります。
- ⑧ S R S型処理装置、検知管、通気管、上部へは物を置くことや車の乗り入れ、歩行は千葉県の基準により禁止されております。(別紙：S R S－C V 2 1設置条件図)

## 2. 保守点検

- ① S R S型処理装置は常に良好な機能を保持させるため正規の維持管理業者による定期的な保守点検（年2～3回有料）とお客様のおおむね週1回程度の保守点検が必要です。
- ② S R S型処理装置の上部が日陰になったり、点検の支障になる様な物を置かないで下さい。
- ③ 別紙＜S R S型土壌浸潤処理装置点検・維持管理説明書＞による。

## 3. 次の場合には有料となります

- ① 装置の機能支障の調査。
- ※ 装置は、設置場所の自然のメカニズムで能力が変化するため保証は致しておりません。

## 4. S R S型土壌浸潤処理装置を長く使用していただくために

- ① S R S型処理装置の機能上、設置場所の土質、浄化槽への負荷、自然条件、維持管理の状況又は、土中に於ける微生物の発生状態等により本装置のライフサイクルは大きく左右されます。
- ② 排水の使用頻度が高くなりますと、浄化槽に負荷が掛かり最終装置であるS R S型処理装置にも負荷が掛かります。BOD等の値が上がる様な場合は、S R S型処理装置のライフサイクルが短くなる可能性が大きくなりますので、負荷を掛けないよう排水を上手に流して下さい。

(株) エスアールエスディービー社  
茨城県笠間市小原4606

TEL 0296-(77)-5801  
FAX 0296-(78)-0087

## SRS-CV21設置条件

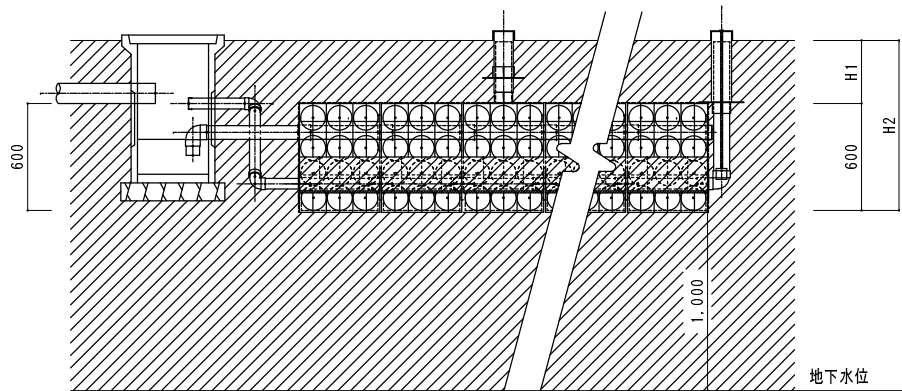
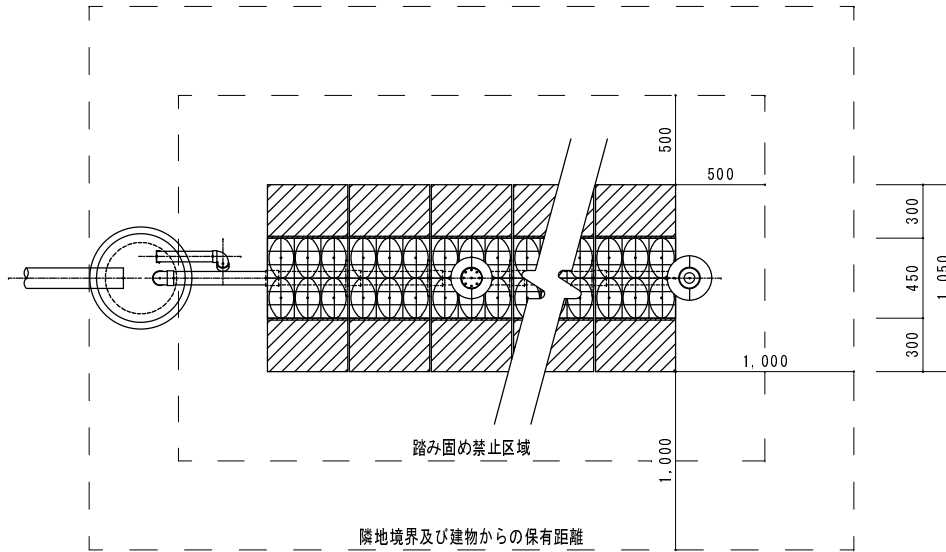
1. 設置場所は原則として日照・通風が良好であり、かつ雨水等が流入するおそれのない場所（盛土等を考慮する）であること。
2. 隣地境界線まで1m以上
3. 建築物まで1m以上
4. 擁壁（透水砂利層）まで1.5m以上
5. がけ（建築基準法施行条例第四条による）の上端及び下端まで1.5m以上、ただし、四十五度を超えるがけについては下端からの四十五度の延長が上部地表面と交わる所及び下端まで1.5m以上
6. 井戸まで5m以上
7. 地下水位が装置下部より1m以内又は湿潤な場所に設けないこと。
8. 土質は黒土、赤土等を原則とし土質調査（最低1.5mの掘削）により判断すること。砂、れきの場合は当該施設周辺を黒土、赤土に置換すること。（岩質・粘土質での設置はできません）
9. 当該施設の上部は人の通行等により踏み固められるおそれのないよう考慮すること。
10. 並列にて施工する際には拡水シートと拡水シートの距離を1m以上とすること。

※参考資料：千葉県浄化槽取扱指導要綱第四の五の（二）に該当する処理装置の取扱いについて

## ユニット設置基数（SRS-CV21-EPS）

合併浄化槽	流入水水量	ユニット数	処理面積
	浄化槽入槽×200ℓ/日	流入水水量÷200ℓ/日	基数×0.81㎡/基 <sup>※</sup>
5人槽	1.0㎡	5基	4.05㎡
7人槽	1.4㎡	7基	5.67㎡
10人槽	2.0㎡	10基	8.10㎡
15人槽	3.0㎡	15基	12.15㎡
20人槽	4.0㎡	20基	16.20㎡
25人槽	5.0㎡	25基	20.25㎡
30人槽	6.0㎡	30基	24.30㎡
35人槽	7.0㎡	35基	28.35㎡
40人槽	8.0㎡	40基	32.40㎡
45人槽	9.0㎡	45基	36.45㎡
50人槽	10.0㎡	50基	40.50㎡

※  $\{ (0.45 \times 0.6) + (0.3 \times 0.45) \} \times 2 = 0.81 \text{㎡/基}$  【ユニット側面+拡水シート×2面】



株式会社エスアールエスディービー社

承認	設計	担当	製図	縮尺
				設計年月日

図面名称

備考

No.

## < S R S 型土壤浸潤処理装置点検・維持管理説明 >

S R S 型土壤浸潤処理装置は点検及び維持管理をすることにより装置のライフサイクルを長く保つことを目的にしておりますので、確実に点検・維持管理を行って下さい。

お客様が点検される日常点検と浄化槽の維持管理時に専門業者によって行われる保守点検の2通りの説明です。(別紙点検要領図参照)

確実に S R S 型処理装置及び浄化槽は維持管理会社と維持管理契約を結んで保守点検を実施して下さい。実施されていない場合はご相談に応じかねます。

### 1. 日常における点検 (一般住宅などは1週間に1回点検)

#### (1) 流入枳

- ① ゴミ等が無い事を確認して下さい。
- ② 枳底に汚泥等が溜まるようでしたら維持管理会社に連絡して下さい。  
(現在新たに設置される浄化槽から排出される有機物は設置後6ヶ月位までに20mg/l以下になるように監理会社によって調整されます。)

#### (2) 通気管

- ① 通気口が落ち葉又は土砂等で閉塞されないようにして下さい。

#### (3) 検知管

- ① アクリル棒の上がり具合を見て下さい。
- ② 流入水量により一時的に上がりますが時間の経過と共に下がります。  
アクリル棒が2～3日下がらない状態の時は管理会社に連絡して下さい。

※ 集合住宅等において、お客様が確認できない場合は建物管理時や浄化槽点検時に確認して下さい。

### 2. 維持管理 (浄化槽保守点検時)

#### (1) 浄化槽汚泥引き抜き時メンテナンス

- ① 検知管フローと、流入管口、通気管口を取り外し内部を点検します。
- ② ポンプのサクション (吸い込み) 側配管を検知管内に挿入し、デリベリ (吐出) 側配管を流入枳に入れ散水管の通水を確認しながら装置内水を循環させます。
- ③ 装置内水が低い時は、流入枳及び通気管口より給水し、散水管の通水を確認しながら循環させます。
- ④ 濁水化した装置内水はバキューム車により処分して下さい。

(株) エスアールエスディービー社  
茨城県笠間市小原4606

TEL 0296-(77)-5801  
FAX 0269-(78)-0087

## S R S 型処理装置 日常点検要領図

S R S 型処理装置は日常点検の他に維持管理点検が必要です

( 1 ) 流入柵 ( おおむね 1 週間に 1 回点検 )

蓋を開けて内部を点検し、ゴミ等が浮いていたら取り除いて下さい。

柵底に汚泥等が溜まっていたら取り除いて下さい。

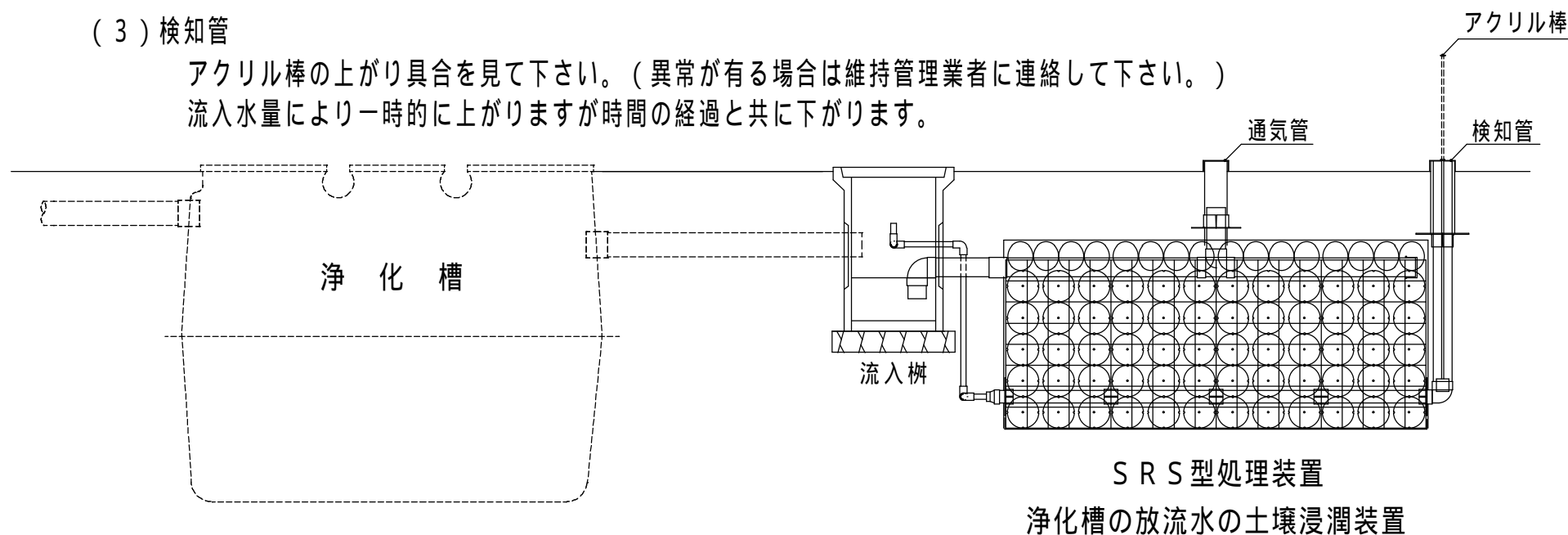
( 2 ) 通気管

通気口が、土や落ち葉等でふさがらないようにして下さい。

( 3 ) 検知管

アクリル棒の上がり具合を見て下さい。( 異常が有る場合は維持管理業者に連絡して下さい。 )

流入水量により一時的に上がりますが時間の経過と共に下がります。

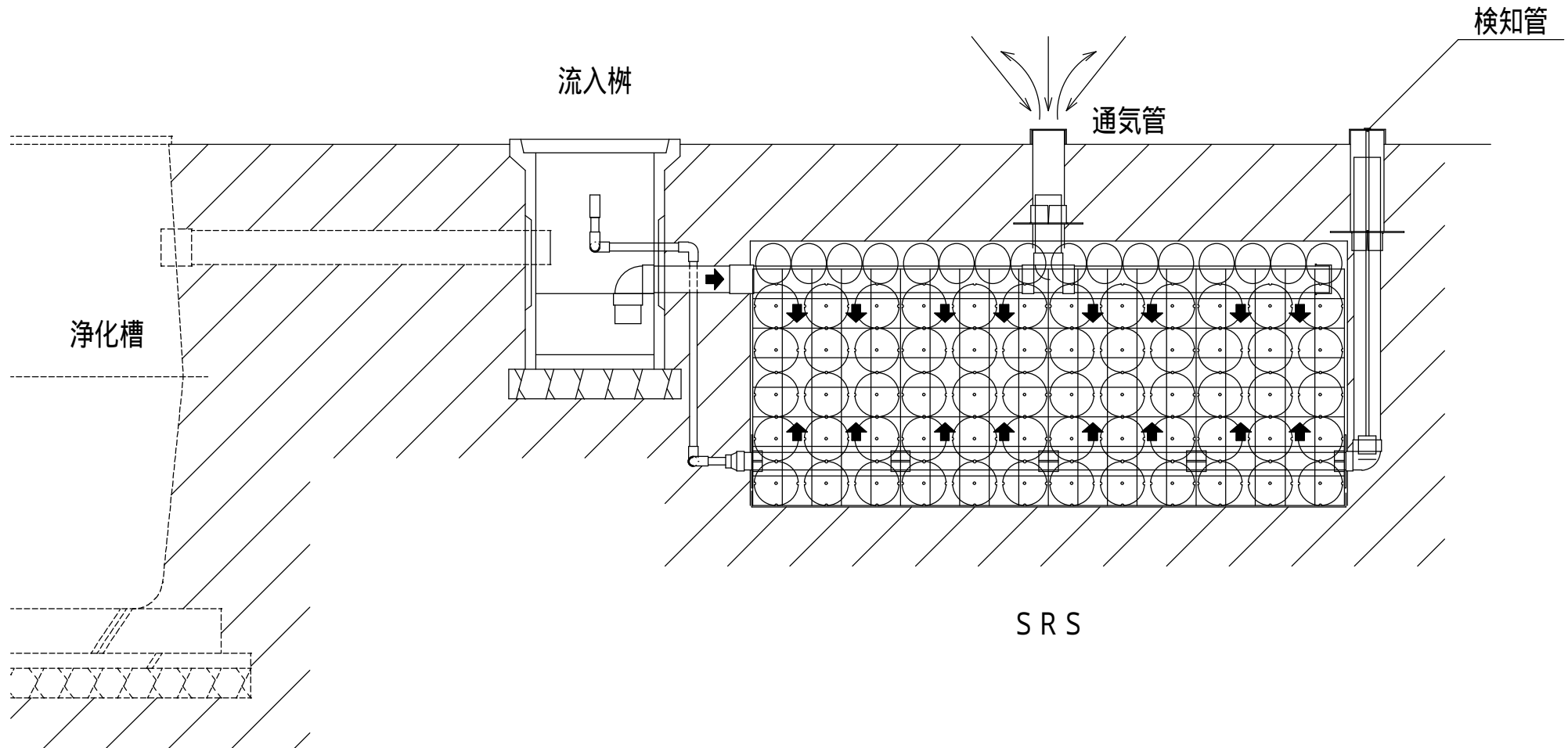


# 排水土壌浸潤装置

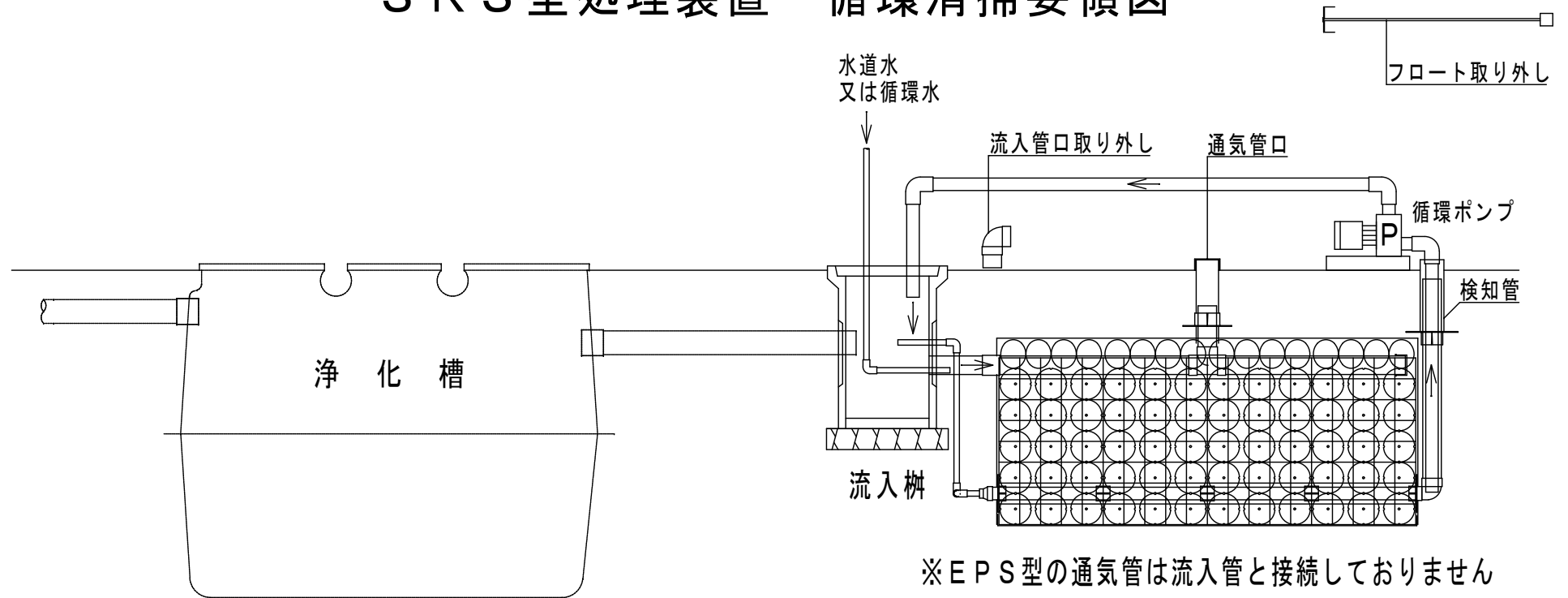
空気の吸排気による自然エネルギーによって自然バッキを発生させ装置に自浄作用が働きます。

95%の空隙率を有しているので一時的な集中流入にも十分対応出来ます。

濾材、装置の洗浄が可能な維持管理機能を有しています。



# S R S 型処理装置 循環清掃要領図



※EPS型の通気管は流入管と接続していません  
SRS型浄化槽放流水の土壤浸潤処理装置

## 浄化槽汚泥引き抜き時メンテナンス

- ① 検知管フロート、流入管口、通気管口を取り外します。
- ② ポンプの吸込側配管を検知管内に挿入し、吐出側配管を流入樹又は通気管に入れ散水管の通水を確認しながら装置内水を循環させます。
- ③ 装置内水位が低い時は、散水管口及び通気管口より給水し、散水管の通水を確認しながら循環させます。
- ④ 濁水化した装置内水はバキューム車により処分して下さい。